

AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART

MEMBERSHIP

愛知県美術館友の会・会報 第37号

空中回廊

この展覧会は郷土の近現代美術史！[アイチのチカラ！]
／会員のひろば／愛知県美術館より[学芸員紹介]／
愛知県美術館コレクションから[《能面増女》]／友の会活動紹介



○この展覧会は郷土の近現代美術史！

全館コレクション展 アイチのチカラ！

11月29日(金) から 2014年2月2日(日) まで開催

1992年愛知県美術館がリニューアルオープンされる前、まだ愛知県文化会館美術館だった頃、ロビーにはブールデルの彫刻がさりげなく置かれていました。その傍らにあったコーヒースタンドで一服すると、何となく文化の香りを身にまとったような気になったものです。それから半世紀を越えて、愛知のアートにはどんな変遷があったのでしょうか。

第1章 戦後愛知画壇の黎明

太田三郎を委員長に、今では古典となった鬼頭鍋三郎、北川民次、杉本健吉等が中心となり、中部日本美術協会が1946年に結成され、戦後の芸術復興を目指しました。芸術文化の社会的地位の回復、美術館や芸術大学の設立等にも意欲的に働きかけをしました。

また愛知県は文化会館の建設を計画し、その中の一部門として美術館が置かれることになりました。1952年から設計公募、そして1955年愛知県文化会館美術館が開館しました。美術館ニュース『窓口』



鬼頭鍋三郎《マドモワゼルM》1954年



戸谷成雄《双影体II》2001年

が発行され、藤井達吉コレクションの寄贈もあり、1961年度から収蔵品の購入が始まりました。主要作品にはブールデルの彫刻等がありました。

第2章 三芸術大学の開学

愛知県立芸術大学は1966年に開学しました。初代学長には上野直昭、教授陣は油画科：伊藤廉、島田章三、笠井誠一ら、日本画科：片岡球子、布施伸介ら、彫刻科：山本豊一、野々村一男ら、翌1967年には名古屋造形芸術短期大学、1970年には名古屋芸術大学も開学しました。愛知の芸術系大学が三校になり、新しい芸術家たちが輩出され、その作品は愛知の文化芸術に大きな貢献をしたのです。

第3章 戦後愛知の日本画

第4章 戦後愛知の版画

第3章、第4章では現在の私たちがよく知っている作家たちの作品が展示される計画になっています。

愛知県美術館は設立以来、愛知ゆかりの作家たちのコレクションに力を入れて来ました。美術館に行けばこれらの作品と出会うことができる。作家と作品を身近に感じることができるのです。これは美術館に出掛ける素晴らしさではないでしょうか。愛知県美術館には魅力的な出会いの楽しさが待っています。

第5章 愛知のモダン&コンテンポラリーアート

ここには愛知の新しい作家たちが綺羅星の如く展示されています。それは私たちが長年見馴れて来た作品とはちょっと違う、しかし何とも魅力的な作品たちなのです。愛知県美術館ではこれらの作家たち



奈良美智《Walking with Small Steps》1995年
(寄託作品) © Yoshitomo Nara



坂本夏子《Painters》2009年

の作品を意欲的に収集しているのですが、これから私たちがコンテンポラリーな作品に出会える機会が多くなることでしょう。

美術館活動の重要な一つは、作品を収集保存することです。そのことによって秀れた美術作品を鑑賞することができるのです。

今回の展覧会「アイチのチカラ!」から、私たちは愛知のアート70年の力強い歩みを感じることができるでしょう。

(宮崎玲子)

※本記事は大島主任学芸員へのインタビューを参考に構成しました。

次回展覧会

2014年2月25日(火)～4月6日(日)

「アイチのチカラ!」の次は…“色彩のチカラ!?”

注目の企画展が目白押しの2013年度。その最後を飾るのが「印象派を超えて一点描の画家たち」です。この展覧会は、オランダのクレラー＝ミュラー美術館の所蔵作品を中心とするもので、スーラやシニャックによって知られるフランスのいわゆる点描技法の誕生と、そのオランダ、ベルギーへの伝播を中心にご紹介します。見どころはそれだけではありません。同美術館が誇るファン・ゴッホの名品がやってくるほか、オランダが生んだ抽象絵画の祖の一人、モンドリアンの作品も展示されます。

この展覧会のテーマは「色彩の自立」です。印象派は移ろいゆく自然の中の色彩を捉えようとしてきましたが、スーラ等新印象派の画家たちは、自然の観察から離れ、カンヴァスの上での色彩の効果を純粋に追究していきました。色彩の力を最大限に引き出そうとした画家たちの仕事を、ぜひ展示室で確かめてみてください。

(学芸員 中西園子)



フィンセント・ファン・ゴッホ《種まく人》1888年
油彩/カンヴァス クレラー＝ミュラー美術館蔵
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands

○会員のひろば○

「クレマチスの丘」(静岡県)バスツアー

講座「版の魅力と行方」／特別鑑賞会ギャラリートーク

◎「クレマチスの丘」(静岡県)バスツアー

5月12日、友の会の懇親イベントである日帰りバスツアーが開催されました。この企画も、2010年に初めて開催されて以来、毎回好評をいただき、今回が4度目の開催です。



庭園を散策する

オープンしたばかりの「ベルナール・ビュフェ美術館」を全員で鑑賞しました。館内では、学芸員の方から簡単に解説をしていただき、後は自由鑑賞です。時間はたっぷり、2時間以上確保してありましたので、みなさん、各自のペースで鑑賞されていました。「ベルナール・ビュフェ美術館」の鑑賞後は、他の美術館に入場されたり、庭園を散策されたりと、思い思いに楽しまれたようです。



学芸員の説明に聞き入る



テッセンにて昼食を楽しむ

当日は晴天に恵まれ、5月にしては暑く、汗ばむほどの陽気でした。今回の行き先は静岡県長泉町のクレマチスの丘です。会員71名にゲスト参加の村田館長を加え、総勢72名での訪問となりました。

クレマチスの丘は、広大な敷地の中に5つの美術館、4軒のミュージアムショップ、4軒の飲食店を擁する複合施設です。もちろん、一日ですべてを制覇することはできません。

そこで私たちは、クレマチスの丘に到着後、日本料理「テッセン」で昼食をいただき、4月にリニューアルオ



ベルナール・ビュフェ美術館前にて

ちなみにこの「クレマチスの丘」、美術館もさることながら、レストランも目玉です。美術館よりもレストランが主目的で来るお客さんもけっこういるそうで…。確かに納得、今回は鑑賞時間を確保するために、「テッセン」での昼食の時間をかなり切り詰めてしまいましたが、本当ならもっとゆっくりお酒と一緒に楽しみたかったところです。そんな訳で、私もバスツアーのひと月ほど後に、レストランを目的に再訪してしまいました。(M.K.)

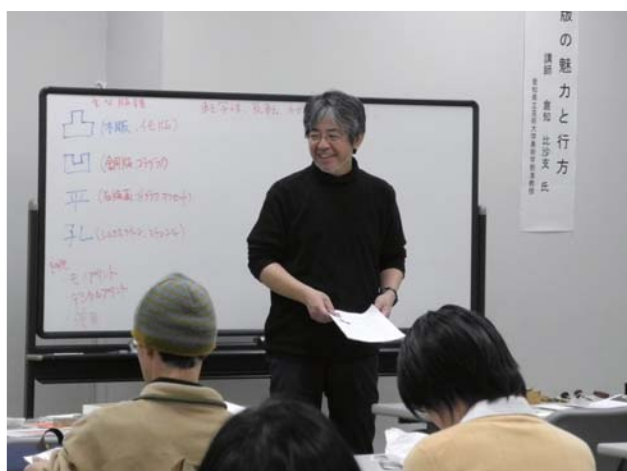
友の会講座『版の魅力と行方』愛知県立芸術大学 倉地比沙支氏

3月23日、愛知県立芸術大学美術学部、倉地比沙支准教授(現:教授)に講演をしていただきました。

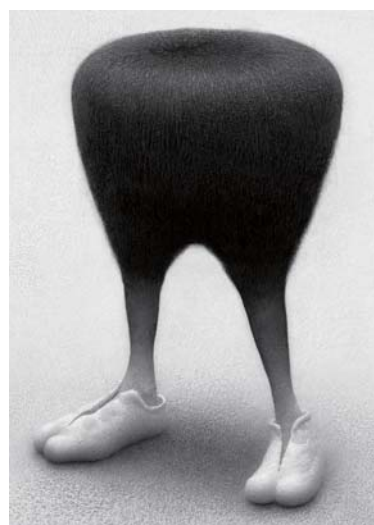
20世紀中頃から感光技術によるシルクスクリーンが広まり、版画は写真の導入に大きく踏み込み始めたこと。90年代以降、一気に版画の多様性が進行してコピー・コンピュータープリント・印画紙などにも版の魅力が広がっていったこと。その後のデジタル化の波とカメラ付携帯の爆発的な普及の中で、現代作家の作品には、イメージとしての「版」、型やコピーとしての「版」、層としての「版」の特質が見られるというお話でした。



先生愛用の道具を拝見する会員



「版」の説明をされる倉地先生



倉地比沙支《independence071》2012年

先生愛用の道具で彫った数本の線を、参加者で触れてその違いを確かめ、沢山の道具を手にとってお話を伺うことができました。

(H.A.)

友の会特別講演会『あいちトリエンナーレ2013の楽しみ方』 拝戸雅彦氏

5月25日、キュレーターの拝戸氏による特別講演会が開催されました。

先端性、複合性、祝祭性が必要な国際芸術祭のあいちトリエンナーレ。美術館の現代美術展は専門

性が高く会場が限定されているのに対して、トリエンナーレは大衆性があり、入場者も多く、一般の人が少し背伸びをすれば見られる国際性の高い展覧会です。展開エリアも広く、従って地域との連携が鍵に



「あいちトリエンナーレ2013」のみどころを熱心に解説される拝戸氏

になると特徴を挙げられました。また、現代美術は訳が分からないところもあるけれど、おもしろさもあり、考えさせられるものもあります。喜怒哀楽の感情を引き出すことそのものが重要と説明されました。

実際にご覧になった皆さんは如何でしたか。

(T.K.)

○愛知県美術館より○

新学芸員の紹介

◇美術課 石崎尚学芸員◇

訳あって再登場ですが、愛知県美術館との最初の出会いは「ロダンと日本」展でした。学生時代に名古屋に来たのですが、随分広い展示室だなと思ったのを覚えています。それ以降も、2008年度の「アンド



リュー・ワイエス 創造への道程」展や2010年度の「小川芋銭と珊瑚会の画家たち」展など、結構見ている展覧会がありますし、巡回展の担当者として一緒にしたこともあります。

意外とご縁があったのかもしれない。

開館20周年に採用されたのもラッキーなことでした。色々賑やかな一年だったので。仕事を始めてしばらくの間、広いバックヤードだなあ、とか広い収蔵庫だなあとか、いつも思っていました。最近は流石に長距離歩行に慣れましたが。何だか「広い」しか言っていないですね。困ったものです。得意なことは雑用です。

友の会の皆様に日頃の美術館の話をする機会があるのですが、途中からは皆様のお話を逆に私が聞いていることの方が多い気がします。それくらい、皆様の愛知県美術館に関する知識や、美術一般に対する愛情には頭の下がる思いです。

○友の会よりお知らせ○

友の会20周年企画のご案内

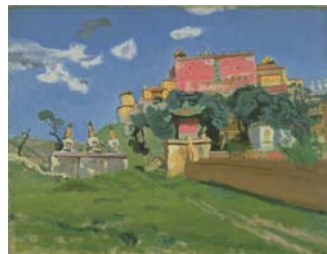
愛知県美術館友の会発足20周年記念企画



グスタフクリムト《人生は戦いなり(黄金の騎士)》1903年

愛知県美術館を代表する30作品の中から、ベスト10を友の会会員で選びましょう。

次号で、30作品をご紹介します。その中から皆さんに一人3点を選んでいただきます。詳細は、次号38号で発表しますのでお楽しみに！



安井曾太郎《承德喇嘛廟》1938年

愛知県美術館友の会は、団体も入会していただくことができます。現在ご入会いただいている団体は、名古屋芸術大学、株式会社MARUWAの2団体です。ご協力ありがとうございます。



名古屋芸術大学

大学院音楽研究科/音楽学部/人間発達学部

〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄井281番地
TEL10568124-0315 FAX10568124-0317

大学院美術研究科/美術学部

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
TEL10568124-0325 FAX10568124-0326

大学院デザイン研究科/デザイン学部

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
TEL10568124-0325 FAX10568124-0326



株式会社 MARUWA

〒488-0044 愛知県尾張旭市南本地ヶ原町三丁目 83 番地
TEL (0561) 51-0841
<http://www.maruwa-g.com>

株式会社 MARUWA SHOMEI

〒110-0015 東京都台東区東上野一丁目1番12号栗橋ビル
TEL (03) 5812-0870
<http://www.maruwa-shomei.com>

株式会社 MARUWA QUARTZ

〒963-7704 福島県田村郡三春町大字熊耳字大平 7-1
TEL (0247) 62-0012
<http://www.maruwa-g.com>

○愛知県美術館コレクションから一深く知ると、もっとみえてくる○

《能面 増女》木村定三コレクション

(編) ここでご紹介する所蔵作品《能面 増女》を、本会報表紙に掲載しました。

木村定三コレクションの受入から今年で10年目になりますが、学術調査は全体の半分も終了していません。大きなブロックで調査がどんどんと進み、展覧会やカタログなどで、矢継ぎ早に成果の報告ができるような所はほぼ終わってしまい、むしろ後は1点1点に、時間の掛かる調査が必要なものばかりが残ってしまっています。今回紹介する能面もそのの一つで、実は正確な作品解説が書けるほどの段階には至っていません。

能面の作者として伝説的な人物がいます。「日水(水見とも書く)」。能創成期の能面十作にも名を連ね、死霊の面を得意としたことは分かっていますが、確かに日水作と確認されているものは未だにないといえます。ただ江戸時代、世襲面打家以前の作と鑑定できる幽霊面には、ことごとく時の権威が「日水作」と鑑定していたらしく、重要美術品に指定されている宝生宗家蔵《姥》などの由来もその程度のことであるらしいのです。

さて当館が木村家から受贈した能面にも「日水作」とされていたものがあります。この《増女》がそれです。裏面に「田作 文菴四歳 二月廿日」とありますが、この「文菴」を文安四年(1447)と読むか、文亀四年(1504)と読むか、実はまだ判断が保留されている事項です。

ところで面白いことに、上記で紹介した《姥》面の裏面にも銘があります。「田作 文亀四年 二月吉日」。なんとほぼ同じではありませんか!!ここでは間違いなく「文亀」と刻まれているのですが、それは日水の生存が確認されている時期です。ところが・・・です。調査をされたお一人の先生曰く「《増女》に比べ《姥》は楷書で弱々しく、同一人物



《能面 増女》裏面の銘

が時期を同じくして刻んだものとは思われない。そしてどちらかが写しであると考えたと《姥》の方が、写しの可能性が高いのではあるまいか」・・・!!

一方、表の顔はまさしく《増女》

の優品であるといえます。この名の由来は本もとの面が増阿弥の作だからであり、同じく重要美術品の宝生宗家蔵《泣増》も雑(増)阿弥作として伝承されています。木村コレクションの《増女》も古様な趣があり、文安四年(1447)とすると、増阿弥が活躍していた時代に近いではありませんか。「文安」であっても「文亀」であっても、ドエリヤーことには変わりはないのです。何回遭遇しても、こういう調査現場の興奮に慣れる事はありません。

というわけで、今回は収蔵庫からの実況放送でした。結論を皆様に御報告できる日を楽しみにしています。

(主任学芸員 長屋 菜津子)



《能面 増女》室町時代
愛知県美術館蔵(木村定三コレクション)

■学芸員の横顔

長屋 菜津子(ながや・なつこ)

愛知県美術館主任学芸員。

高3、小5の2人の息子と、おばあちゃんとおばちゃん(子供から見て)、犬1匹、鯉3匹、そして夫1人と暮らしています。





AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART
MEMBERSHIP

■ 理事会から

村田館長がツイッターで友の会を紹介してくださったり、集客の多い企画展が催されたりして、ここ数ヶ月で会員が100名ほども増加し、友の会がとても盛況になりつつあることは喜ばしいことです。館長は友の会の創設から関わっておられるので、友の会への愛着もあり、多くの支援を戴いており、とてもありがたいと思っています。

愛知県美術館の熱心な学芸員さんたちと、国内でも顕著なボランティア活動をしている友の会がお互い助け合って、今後も美術館を盛りたてていきたいと考えています。

来年度は友の会設立20周年を迎えることから、よりいっそう充実した取り組みを推進していこうと考えています。そのためにも会員の増加とご協力、ご支援をお願いいたします。
(小林会長)



新理事メンバー

■ 友の会活動紹介

期間 2013年3月-10月

★中面で紹介

「円山応挙展」

3月 特別鑑賞会(昼・夜)



特別鑑賞会は、深山美術課長がお持ちの蝋燭を模した灯りで始まりました。江戸時代の人が鑑賞した、篝火のゆれる鶺鴒船や、応挙が襖に描いた孔雀が生めいて浮かび上がる度に、参加者の感動の声があふく。(H.A.)

「ブーシキン美術館展」

5月 特別鑑賞会(昼・夜)

5月 「クレマチスの丘」(静岡県)バスツアー ★

5月 総会

5月 特別講演会(拜戸雅彦氏)

「あいちトリエンナーレ2013の楽しみ方」★

「あいちトリエンナーレ2013」

8月 特別鑑賞会(午前 名古屋市美術館)

(午後・夜 愛知県美術館)

10月 懇親日帰りバスツアー



10月6日、秋のバスツアーが開催されました。今回は浄瑠璃寺などの古刹を回りました。数百年の時をこえて鎮座する仏様と静かに向き合うことができました。
(M.T.)

定例活動 (2013年4月-10月)

美術館モニター 2回

所蔵作品管理 のべ13回(毎月第2・第4水曜日に活動)

収蔵作品の台帳作成補助、軍手・白手袋の洗濯、座布団・紐等の製作、木村定三コレクション風呂敷の洗濯・補修・手入れ、サラシの洗濯・アイロンかけ

発送 のべ3回

受付 のべ2回

会報発行 第37号発行

ホームページ 随時更新

..... これからの企画展のご案内

アイチのチカラ! 戦後アート、70年の歩み

11月29日(金)→2014年2月2日(日)

印象派を超えて— 一点描の画家たち

2014年2月25日(火)→4月6日(日)

友の会入会のご案内

友の会の詳しい活動内容を知りたい方、入会をご希望の方は、下記までお問合せ下さい。

● 10階愛知県美術館受付

● 友の会事務局(火・木・土 10:00-16:00)

052-971-5511(代) 内線347
tomonokai@aac.pref.aichi.jp

暑い今年の夏。気温もさることながら、「あいちトリエンナーレ2013」も大変な熱さ。美術館に貼り廻らされた黄色のテープは、原子炉の大きさを表したものの。面白い!と思わず手を叩きたくなるような芸術作品に心が踊ります。
(大矢)

□編集 松下智子/冨永晃一/大矢真美代/喜田泉
小林克敏/平松章子/水野愛子/宮崎玲子/森健次
□協力 愛知県美術館
□発行 2013年12月
愛知県美術館友の会
〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2
愛知芸術文化センター内
TEL 052-971-5511(代)内線347
FAX 052-971-5617
E-mail tomonokai@aac.pref.aichi.jp
美術館ウェブサイト <http://www-art.aac.pref.aichi.jp>